

2026 年度 (令和 8 年度) 学校評価自己評価表

幸千	中学校区	校番 106	福山市立	幸千中	学校
最終更新日			2026年(令和8年)4月14日		

I 福山市

めざす姿	すべてのこどもたちが、自分自身の成長を実感できる学校教育の実現
------	---------------------------------

II 中学校区

前年度学校運営協議会の主な内容 ○各校とも、地域の交流館、住民、企業、団体との連携を積極的に進めており、子どもたちにとっても地域を深く知り、親しみをもつとても貴重な機会になっている。 ●CSの求めているものが、保護者や地域に十分伝えられていない。もう少し積極的に発信できるとよい。 ●先生だけでなく地域・保護者も一体となって取り組むことが大切である。	児童生徒の現状 OCSの取組によって地域や小中の連携がより積極的に図られ、地域の行事やボランティア活動へ参加する児童・生徒が増え、そのことが児童・生徒のつながり、自信、地域への関心・愛着につながっている。 ●中学校区として、基礎的な学力の定着が図られていない児童・生徒や不登校児童・生徒数がまだ多い。	育成する力 資質・能力 めざすこども像 (義務教育修了時の姿) 中学校区として統一した取組等	思考・創造力 表現力 思いやり 能動的市民性 ○主体的に学び よく考える生徒 ○自分なりに表現し伝え合う生徒 ○思いやりのある生徒 ○人や社会に貢献しようとする生徒 ○住み続けられる町づくりを考えることを目的にした学習を核に各教科等と関連づけたカリキュラムを実施することで、めざす子ども像に迫る取組を行う。 ○生徒の実態を細やかに分析し、生徒のつまずきの要因に対応した指導と支援を行う。
--	--	--	---

III 自 校

学校教育目標 有為の人 ～夢の実現にむけ、真摯に努力する生徒の育成～	育成する力 資質・能力 レベル3 めざすこども像 レベル2 レベル1	思考・創造力 自分自身の「思考・想像力」について評価し、示すことができる。 情報を収集するとともに、分析・活用しながら、問題を発見し、その問題解決を目指すことができる。 与えられた情報を整理できる。	表現力 自分自身の「表現力」について評価し、示すことができる。 多様な人たちに、相手の立場や背景を考えながらわかりやすく伝えることができる。 自分の意見や考えを集団の前で話すことができる。	思いやり 自分自身の「思いやり」について評価し、示すことができる。 周囲の幸せを考えることができ、集団や他者に対して、思いやりを持って行動することができる。 集団や他者との中で、他者を気づかえる。	能動的市民性 自分自身の「能動的市民性」について評価し、示すことができる。 社会をよりよくしようと、社会の主体としての意識を持ち、社会がよりよくなるために行動できる。 所属する一員としての自覚を持つ。
現 状 〈児童生徒〉 ・生徒会活動、学校行事、ボランティア活動、アンネのバラの活動など、生徒が主体的に活動に取り組み、問題発見、問題解決等の探究活動にも積極的に挑戦している。 ・不登校生徒数は年々微減傾向にあるが、R7年度46名(7.2%)〔R6年度50名(7.7%)〕であり、まだ課題が大きい。※R6年度全国平均 6.8% ・全国学力調査において、どの教科も全国平均に徐々に近づいているが、正答率40%未満の生徒数が30%を超えており、学力の定着にはまだ課題がある。 ・全体的には落ち着いた学校生活を送ることができているが、ヘルメットの着用率、身だしなみなど、ルールを守れていない状況が見られる。 〈授業〉 ・個人や学年で、各種検定試験に積極的に挑戦しており、教員、生徒ともに学習の定着を図ることに意欲的に取り組むことができている。また、その取り組みが生徒の自信となり、次の目標を立て主体的に学びに向かう生徒も増えてきている。 ・問題解決学習、探究学習を通して、生徒が自ら問いをもち、意欲的に課題に取り組む姿が多く見られるようになっている。しかし、身に付けさせたい力を明確にし、それを身に付けさせるための全体を見通した指導者の授業づくり(単元構想・指導計画の充実)においては、さらなる追求が必要である。	研究 テーマ 内容等 めざす授業の姿	探究的な学びを支える「読解力」を育む授業づくり ～土台としての知識・技能の定着に向けた「つながり」の工夫～ ①学力調査等のデータを基に、生徒の実態を把握し、身に付けさせるべき力を明確にし、単元構想、指導計画を立てる。 ②生徒自らが問いをもち、主体的に問題解決を図ることのできる授業づくりをする。 ○生徒の学習の定着度を踏まえ、身に付けさせるべき力を身に付けさせるために指導者と生徒が共に「つながり」を意識することができる授業。 ○生徒が主体的に問いをもち、問題解決のプロセスを通じて、「学び方・考え方」を身に付けられる授業。			

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立

幸千中

学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価（10月1日）				最終評価（2月末）				
							□指標に係る 取組状況	プロセス 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期（中期）経営 目標の達成状況	プロ セス 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
3	・主体的に考え、自らの力で課題解決を図ることができる生徒の育成 ・生徒に確かな学力を身に付けさせるための授業づくりと指導力の向上	★	継続	・生徒に、主体的に学びに向かおうとする態度を育む。 ・生徒に、家庭学習や自主的な学習に積極的に取り組もうとする態度を育む。 ・教員の、学びをファシリテートする指導力・単元を構想する力を高める。	・生徒が課題意識をもって学習に取り組めるように、問題解決的な学習、探究的な学習を基盤とした授業づくりに取り組む。 ・生徒の実態を、各種データを基に的確に分析し、身に付けさせたい力を明確にした単元構想を立て、それに基づいた計画的な指導に取り組む。 ・家庭学習の定着を図るための工夫に取り組む。 ・「指導と評価の一体化」を意識した実践に取り組む。	・生徒の変化に応じた柔軟な授業の実践（教員アンケート関連項目において肯定的評価）90%以上 ・生徒の学びの状況（生徒アンケート関連項目において肯定的評価）85%以上 ・全国学力調査/福山市学力定着状況調査等における正答率40%未満の生徒の割合 30%未満									
5	・自尊感情、自己肯定感、自己効力感の高い生徒の育成 ・Well-beingの理念の実現を目指し、一人一人の多様な幸せ、また社会全体の幸せを考え、行動できる生徒の育成		継続	・生徒が自ら決め、実行し、成功する体験を通して、生徒に自信と達成感を育む。 ・生徒が主体的に校内外のボランティア活動を企画・実施することを通して、生徒に社会貢献の素晴らしさや地域への愛着を育む。	・生徒が主体的に動く行事や3年間を通したライフスキルプログラムに計画的に取り組む。また取組内容を全体に周知する。 ・各種検定に取り組む。（検定の意義および実施計画・結果等を周知する。） ・ボランティア活動の企画（月に1回）と実施及び活動成果の分析と結果の周知を行う。	・生徒アンケート「自分で目標を決め、学びや学校行事等に取り組んでいる」85%以上 ・生徒アンケート「ボランティア活動に積極的に参加している」60%以上 ・生徒アンケート「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」85%以上									
5	・生涯にわたって運動に親しむとともに、健康の保持増進と体力の向上を目指す生徒の育成		継続	・生徒に、主体的に体力の向上に取り組む態度を育む。 ・生徒に、運動の楽しさを実感させるとともに、健康を大切にする態度を育む。	・体育の授業で、筋力・基礎体力の向上に係る体力づくりを継続して実施する。 ・授業の中で協働的な学びの場面を設定し、他者との協力や励ましの中で体育的活動に対する自己肯定感が高まる取組を行う。 ・授業等を活用し、生徒に生活習慣の改善や食育の推進の機会を設ける。 ・試験期間を利用し、スマートフォン等メディア個人使用時間の減少に取り組む。	・体力・運動能力調査にける、筋力・筋持久力の項目を全国平均値以上。 ・生徒アンケートにおける体育的活動の場面での協働的な活動に対する肯定的評価90%以上 ・生徒アンケートにおいて、スマートフォンやタブレット等の個人利用時間〔平日2時間以内〕の達成状況 40%以上									

3	・学校と地域が連携、協働し、子どもたちの成長を支える環境づくり		継続	・学習活動や行事等において積極的な地域との連携に取り組み、地域の多様な関係者の学校教育への参画を推進する。 ・地域の行事や防災の取組等、地域の特色を生かしながら教育活動の充実を図る。	・CSを基盤とし、地域資源を活用した学習活動や行事等に取り組む。 ・生徒会やボランティアの活動を基軸とし、小学校と連携した活動や地域行事への参加など、地域と関わる活動に積極的に取り組む。 ・保護者や地域にCSの活動を積極的に発信する。	・地域資源を活用した教育活動の実施（各学年年間実施回数）3回以上 ・ボランティア活動を主軸とし、小学校との活動や地域行事への参加回数（年間実施回数）5回以上 ・保護者、地域への情報発信（年間実施回数）3回以上 ・「地域の人から学んだり、教わったりしたことは、自分の将来に役立つと感じた」生徒（生徒アンケートでの肯定的評価）90%以上								
6	・教職員がやりがいを持ち、元気、笑顔で、安心して勤務できる環境の充実 ・教職員が個性を発揮しながら、生徒とともに自ら挑戦し続けることができる環境づくり		継続	・教職員どうしの対話、コミュニケーションを深める。 ・組織マネジメントを確立し、同僚性と安心感の高い組織づくりを進める。 ・学校全体として時間外在校時間の1か月平均30時間以内を実現する。	・業績評価（自己申告）書において、教職員一人一人が自分のやりがいや自分の成長を高められる目標を設定する。 ・カリキュラムマネジメントを意識し、生徒の資質・能力を育むために、教職員一人一人の持ち味が生かせる持続可能な教育課程を編成する。 ・チーム幸千として協働的で、支え合える組織体制の構築を進めるとともに、効果的で効率的な業務遂行に取り組む。	・教科の面白さを感じ、教科指導に意欲的に取り組んでいる教員（アンケートでの肯定的評価）90%以上 ・やりがいを感じている教員（アンケートでの肯定的評価）90%以上 ・授業づくりを行う時間が確保できている教員（アンケートでの肯定的評価）85%以上 ・個性が認められていると感じる教員（アンケートでの肯定的評価）90%以上 ・時間外在校時間1か月平均30時間以内の実現								

「プロセス評価の評価基準」

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

「達成評価の評価基準」

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

「総合評価の評価基準」

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。